捕獲努力量(CPUE)調査の概要

１　調査内容と目的

エゾシカの全道的な生息動向を把握するため、狩猟者を対象として狩猟期間中にいつ（月日)、どこで（市町村、5kmメッシュ番号)、何が（性別)、何頭捕獲されたか、あるいは目撃（捕獲数を含む）されたかについて、調査を実施しています。この調査によって、ある場所で狩猟者１人が１日あたり何頭のエゾシカを捕獲したか(CPUE と呼んでいます。)、もしくは、狩猟者１人が１日あたり何頭のエゾシカを目撃したか(SPUE と呼んでいます。）というデータが得られます。

この調査は、エゾシカの生息頭数の増減を推測する目的で実施しています。

２　これまでの調査実績

この調査は1990年度から毎年同じ方法で実施してます。

３　調査方法

毎年の狩猟期間終了後、狩猟者から提出される狩猟報告を電算入力して分析を行います。電算入力及び分析に時間を要するため、結果が全て集計されるのは、１年後になりますが、近年 10%抽出による分析を新たに実施するなど、迅速な分析ができるようになってきました。

４　調査結果

次ページに、全道における1990年度から2005年度までのデータを示しています。

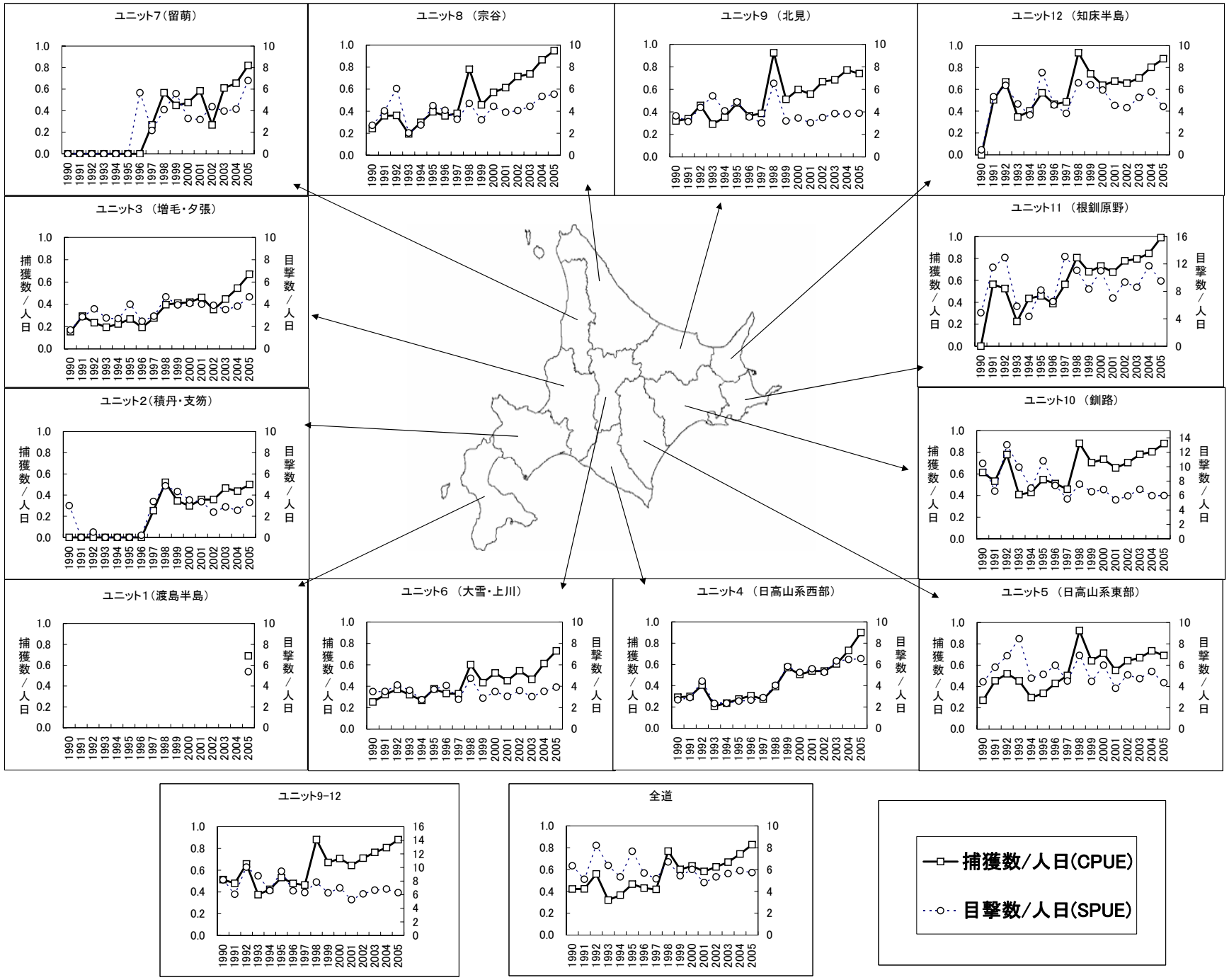
実線で示しているのが、狩猟者１人１日あたりの平均エゾシカ捕獲数（CPUE)、点線で示しているのが、狩猟者１人１日あたりの平均エゾシカ目撃数(SPUE)です。CPUE については、狩猟の捕獲制限（１日の捕獲が認められている頭数など）の影響を強く受けると考えられており、エゾシカの生息動向については、SPUE の方が正確に反映されていると考えられています。

2005 年度の結果を前年度と比較すると、道西部のユニット２，３，４，６，７，８では CPUE と SPUE ともに前年より増加していました。

1998 年度頃からの傾向をみると東部地域では 2001 年度頃までは CPUE、SPUE ともに大きく変動しながらやや減少している傾向が伺えますが、2002 年度以降は変動が少なくなり、増加傾向が見られます。東部地域に隣接するユニット４（日高)、ユニット８（宗谷）は 2000 年度ごろから CPUE、SPUE ともに増加傾向であり、ユニット３（増毛・夕張)、ユニット６（大雪・上川）も 1997 年度頃から水準が高くなり、その後は横ばいの傾向が続いた後、近年は増加傾向が見られます。

最近の５年間（2001 年度～ 2005 年度）の傾向を見ると、ユニット９，１０，１２では、ほぼ一貫した緩やかな増加傾向が見られます。

東部地域全体（ユニット９－１２）の傾向としても 2001 年度からは緩やかな増加傾向が見られます。また、ユニット４（日高）及びユニット８（宗谷）では近年、著しい増加傾向にあります。



ユニット別の捕獲努力量（CPUEとSPUE)の推移